

収入		主なもの		支出			
市税	156億2238万円	所得・土地・家屋・たばこ等に対する税	前年度比 2億6840万円増	人件費	54億9519万円	職員の給与など	前年度比 1億3802万円減
地方消費税交付金	15億円	消費税の市への割り当て分	前年度比 1300万円増	扶助費	97億3653万円	生活援助に要する経費	前年度比 7億7965万円増
地方交付税	37億円	国からもらうお金	前年度比 4億円増	公債費	35億691万円	借入れの返済	前年度比 2億965万円増
繰入金	15億7924万円	基金からの繰り入れ	前年度比 6億1483万円減	普通建設事業費	32億5099万円	建設に関する費用	前年度比 27億3745万円減
建設等に係る事業債	14億5600万円	建設に関する借り入れ	前年度比 19億7230万円減	繰出金	27億7588万円	特別会計への繰り出し	前年度比 2095万円減

(1万円未満切捨て)

## 平成28年度一般会計 予算案の特徴

当初予算は、前年から約13億円（前年度比3.5%）減の約367億円となりました。これは、なの花学校給食センター施設購入費一時金（約18.1億円）の前年度支払い、広域ごみ処理施設等建設事業（約31.9億円）、小中学校大規模改造事業（約8.3億円）等を平成27年度に前倒して計上したことによるもので、実質は、過去最大規模の予算です。民間認可保育園整備運営費補助、元気・健康マイレージ事業、生活困窮者の自立支援策の拡充、小・中学校特別教室空調設置工事、お出かけサポートタクシー及び市内循環ワゴン、市民大学開設等、次の10年に向けたきめ細やかな予算編成となっています。



4月に開園したふじみ野どろんこ保育園

# 次の10年に向けた きめ細やかな予算編成

## 合併特例の終了に備えて

○ 今後の財政状況は、超高齢社会の到来に加え、公共施設の老朽化対策等が控えている。さらには、合併特例債の償還が増加し、合併により恩恵を受けている普通交付税の特例措置が平成28年度から段階的に縮減される。今後、経費の抑制、自主財源の強化を進めていく。

## 協働のまちづくり

○ 新たな協働の担い手は、これまで行政との協働の担い手として核となってきたのは、町会、自治会、町内会などの自治組織、自治組織との協働は、市の防災、防犯対策で多大なる効果を発揮している。今後も自治組織との連携強化を図りつつ、新たな協働の担い手として、市民活動団体、公益法人、NPO等との連携も推進していきたい。

## 保育需要と保育所

○ 保育需要の現状と今後の保育所の整備計画は、保育所入所の第一次選考結果は、入所保留児童数が151人、うち国が定めた新基準による待機児童数は22人。今後実施される第二次選考の結果を受け、待機児童となってしまう家庭に対し、一人ひとり連

の審査を経て、各予算案・各条例案等を可決しました。  
また、追加議案として提出された平成28年度ふじみ野市一般会計補正予算（第1号）を可決しました。

を下回らないよう、特例として認められている。合併による恩恵は、約7億円あったが、平成28年度から5年間をかけた段階的に縮減される。その対策として計画的に基金への積み立てを行ってきた。引き続き、安定的な行政サービス、健全財政の維持強化に努める。

## 障害者差別解消法

○ 法の施行を受けての対応は、

○ 障害者差別解消支援地域協議会の設置や構成員を地域自立支援協議会に検討する。また研修会

## 大井総合体育館の大規模改修

○ 工事等のスケジュールは、

○ 大井総合体育館、武道館は、建築から約35年が経過。老朽化から多数の外壁ひび割れ、爆裂、数カ所の雨漏りが発生している。平成28年度に、体育館の改修工事設計、武道館の耐震診断、補強設計を行う。平成29年度

## （仮称）苗間みほの公園

○ 整備のスケジュールは、

○ 平成27年12月に県から旧大井教職員住宅跡地を買収。現在、建屋の解体工事を実施。平成28年度は、設計及び整備工事を実施する予定。

## 水宮地区雨水対策

○ 工事の内容は、

○ ゲリラ豪雨等により水宮地区内に福岡江川雨水幹線から雨水が逆流し、浸水被害等が発生している。逆流防止弁の設置と新設の排水ポンプによる下流地点への強制排水により対策を講じる。ゲリラ豪雨、台風が多発する6月末までには、設置したい。

※入所保留児童 保育所に入所の申し込みをしたが、空きがなくて待っている状態の児童。